

第43回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ ～顕著現象の解析～

教育と普及委員会

主 催：(社)日本気象学会

後 援 (予定)：気象庁，日本地学教育学会，(財)気象業務支援センター，日本気象予報士会

日本気象学会は，最新の気象学の普及を目指して，小・中・高等学校の先生や，気象を学ばれている学生・一般の方を対象に毎年夏季大学を開催しています。

今年のテーマは「顕著現象の解析」です。近年は局地的な豪雨などの顕著な大気現象に対する関心が高まるとともに，それらの発生メカニズムや予測手法が注目されています。また，ネットワークの発展や研究・教育目的での気象データや解析ツールの公開が進み，

天気図の取得や気象データの解析が容易に行えるようになってきました。これらを背景とし，今年度の夏季大学では顕著現象のメカニズムや予測に関する最新の知見について，講義を通じて理解を深めるとともに，実際にデータ解析を行うことで，講義で学んだ知識を再確認していただきます。

○日程，講義題目，講師

2009年8月1日(土)

10:00～11:30 「突発的集中豪雨の発生環境場と発生メカニズム」

加藤 輝之 (気象研究所予報研究部)

要旨：マスコミが「ゲリラ豪雨」として取り上げ

る突発的集中豪雨は発達した積乱雲によってもたらされる。そのような身近な存在である積乱雲に着目して、どのように積乱雲が発生・発達するかを説明し、雲解像モデルによる数値シミュレーション結果も交えて突発的集中豪雨の発生メカニズムに迫る。

13:00～15:00 「突発的集中豪雨の解析（実習）」

津口 裕茂（気象研究所予報研究部）

要旨：過去に発生した首都圏での突発性集中豪雨の事例について、高層観測データや客観解析データ等の資料を用いて豪雨が発生した大気状態を考察する。

2009年8月2日（日）

10:00～11:30 「局地的大雨から身を守るために」

鈴木 和史（気象庁予報部業務課）

要旨：局地的大雨の観測や予想として気象庁が提供している防災気象情報の利活用方策について解説するとともに、過去の事例から大雨時の気象状況の特徴を紹介する。

13:00～15:30 「局地的な大雨の予測に向けた環境場の把握と各種観測・予報システムによる監視」

中鉢 幸悦（気象大学校）、村中 明（気象庁予報部予報課）、鈴木 和史（気象庁予報部業務課）

要旨：本演習では、前日、当日の各種資料から、局地的な大雨の発生しやすい環境場を整理する。さらに、各種観測・予報資料を利用して局地解析を行い、強雨域の発生、発達、衰弱の要因について理解を深める。また、演習を通じて理解した局地的な大雨などに関わる気象庁の予報、警報の現状、今後の計画について解説する。

○講義会場

気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）
会場の地図は、気象庁ウェブサイト（<http://www.kishou.go.jp/intro/map.html>）をご覧ください。

○募集対象人数

定員50名程度

○受講料（消費税含む）

6,000円（学生 4,000円）

参加申込受付後、郵便口座をお知らせしますので、そちらに受講料の振込をお願いします。

○講義資料

受講者の方には、事前に講義レジュメをオンライン配布します。また、開催後に、講義まとめ録を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲示する予定です。同サイトには、過去の資料が公開されていますので、ご覧ください。

○参加申込方法

ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は、「教育と普及委員会」ウェブサイト（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/kyoi/kuhukyu/>）をご覧ください。インターネットへの接続環境をお持ちでない方は、下記事務局にお問い合わせください。

○参加申込開始日

2009年6月10日（水）

定員になり次第、締め切らせていただきます。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局
Tel：03-3212-8341（内線2546）
Fax：03-3216-4401